

PEG をめぐる状況の変化

JA 三重厚生連 三重北医療センター 菰野厚生病院 薬剤部 川瀬将紀
栄養科 中谷理恵 リハビリテーション科 坂下真千 千原万穂 看護部 石田実希

【背景】 PEG により胃瘻が普及した一方で、患者家族の満足度との乖離、各ガイドライン等による提言を受け、PEG の保険請求の変更がなされた。我々は以前にも PEG 後の患者の状況について調査を行っており、以前の状況と近年の PEG 施行症例の状況が変化しているのかを再度調査した。

【目的】 胃瘻増設例の前後における状況調査

対象：2016年4月から2017年3月までの1年間における当院の PEG 症例 18 例
調査項目：PEG 前の嚥下造影検査の有無、PEG 後の経口訓練の有無、転帰

【結果】

PEG 前の嚥下造影検査は 9/18 例（50%）で実施されており、言語聴覚士による嚥下評価や他院にて評価済の例も含めると 13/18 例（72%）であった。PEG 後の経口訓練例は 5/18（27%）、経口摂取のみへの移行例は 1/18（5%）であった。

【考察】 当施設では嚥下造影検査を行う機会が限られており、以前より増加はしたものの、PEG 前に嚥下造影検査を行う症例は約半数にとどまった。ただし嚥下造影検査以外にも言語聴覚士による嚥下評価を行っており、全体としては 7 割を超える症例にて経口摂取について評価がなされていた。嚥下評価未実施群については PEG 目的での紹介入院、家族の PEG 希望等の理由であった。PEG 後の経口訓練や経口摂取への移行は近年でも困難である事が多く、今後も課題となる。